

神道と日本文化



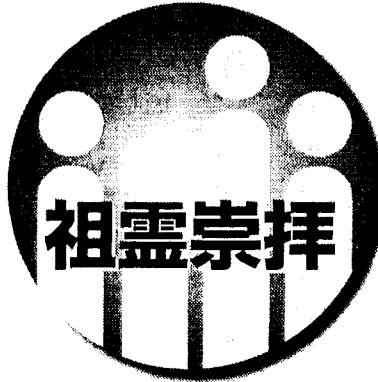
釧路あすなろクラブ第一部会

● 神道の教えの三本の柱



自然崇拜

人間を育み、
神が宿る自然を
大切にする。



祖霊崇拜

個人の今の存在に
つながる祖先を敬う。



伊勢信仰

伊勢神宮を崇敬し、
その司祭である
天皇家を敬う。

● 日本人が神を感じた場所

[山]

天に近く、容易には近づけない山に対し、古くから人は神の存在を感じてきた。大神神社など、山そのものを御神体とする神社も存在する。

[森]

木々に覆われる森にも、人々は神の存在を感じた。とくに人智を超える巨木などは崇敬の対象となり、大切にされてきた。

[浜]

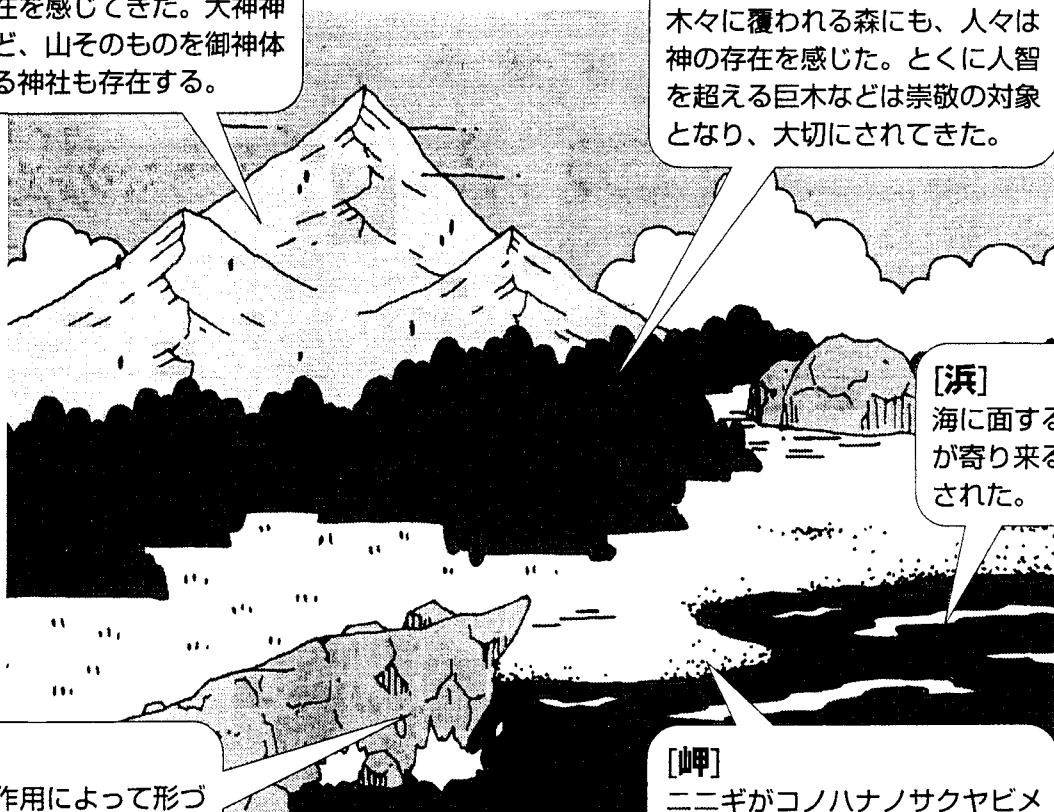
海に面する浜は神が寄り来る場所とされた。

[岩]

自然の作用によって形づくられた巨岩や奇岩は、神の座する場所とみられたり、そのものを御神体とすることもあった。

[岬]

ニニギがコノハナノサクヤビメに出会った笠沙の岬のように、海に突き出した陸地は、漂着した神々が寄りつく場所とされた。



●神道の代表的神々

(『古事記』に拠る)

くにつかみ
[国津神]

(大山津見神)

足名椎命

手名椎命

櫛名田比売命

木花知流比売命

沼河比売命

大国主命

建御名方神

事代主命

神屋楯比売命

伊弉冉尊

伊弉諾尊

月読命

天照大神

大山津見神

大綿津見神

素戔嗚尊

天之忍穗耳命

萬幡豊秋津師比売命

木花開耶媛命

瓊瓊杵尊

日子穗穗手見命

豐玉毘売命

神武天皇(初代)

玉依毘売命

鵜草葺不合命

(六代略)

天之御中主神

高御産巢日神

神産巢日神

宇摩志阿斯訶備比古遲神

天之常立神

八意思兼神

少彦名神



天照大神

大和朝廷の全国支配の正当性を示し、神々の頂点に立つ女神

神格：太陽神、皇祖神
主要神社：伊勢神宮、東京大神宮、四柱神社など



伊弉那大神と伊弉冉大神

国土をつくり、多くの神々を生んだ夫婦神

神格：伊弉諾大神、伊弉冉大神
主要神社：多賀大社、三峰神社など

神話に最初に登場する夫婦神。国土を生み神々を生んだ二神は、国堅めの神、生命の祖神である。伊弉冉大神は最後に火神を生み火傷で命を落とし、黄泉国に行く。伊弉冉大神が人間の寿命を司る神でもあるのはこのためだ。『古事記』では黄泉の国から帰った伊弉冉大神は、左目から天照大神神、右目から月読命、鼻から須佐之男命を生み、それぞれ高天原、夜食国、海原を治めさせる。これから伊弉冉大神は天父神の性格を持つといえる。

八百万の神を統べる最高神。『古事記』では、伊弉冉大神が黄泉国から逃げ帰り、小門の阿波岐原で産した時に生まれたといわれる。喜んだ伊弉冉大神は天照大神神に高天原の支配を委任した。

名は、アマ(天) + テラ(照) + ス(尊敬) から「天に坐して照り賜ふ意」とする『古事記伝』の説とアマ(天) + テラス(照)と「天に照り輝く」意に取る説がある。

日本の神々



神格：海の神、航海の神
主要神社：住吉大社など

ワタ（海）十ツ（の）十三（神霊）という名の通り、海の神である。水を支配する神とされ、海幸・山幸の神話に登場する。兄に借りた釣り針を失い、失意のうちにやって来た日子穂穂手見命を助け、娘豊玉毘売を嫁がせた。穂穂手見命は、大綿津見神に与えられた水を支配する珠で、兄を懲らしめる。この伝説から、人の貧富をも司る神とされる。また、「少童命」とも書かれることから、子供の姿として思われ描かれていたことが窺える。



神格：山の神、海の神、酒造の神
主要神社：大山祇神社、大山阿夫利神社など

名の意味は「偉大な山の精霊」を示す。「古事記」では足名椎・手名椎や木花之佐久夜毘売の父であり、天津神に対する大地の国津神の代表格である。本来は農事に水を供給したりする山の神信仰から生じた神。本居宣長の説では、ヤマツミは山持で山を持ちます義であると解釈され、広く山を司る神という。山岳修験で篤く信仰される一方で、酒造りの守護神として、また戦国から近世にかけては海上守護、武神・軍神として信仰された。



神格：農耕神、占いの神
主要神社：出雲大社、月山神社など

「古事記」では、伊邪那岐神が黄泉国から逃げ帰り、禊をした時に生まれた神で、夜の国を治める。「日本書紀」には、次のような記述がある。月読命は天上の天照大神の命で、保食神のもとに降りる。保食神は山海の食物を口から吐き出し奉った。怒った月読命は保食神を斬り殺し、天に帰り報告。すると、天照大神は「汝は是悪しき神なり。相見じ」と激怒し、これより月と日は交替て天に現われるようになったという。



神格：農耕の神
主要神社：須佐神社など

「古事記」によれば、出雲国の肥河の川上に住む翁姫の夫婦神である。また、足名椎神は国津神・大津見神の子でもある。七人の娘を八俣大蛇に奪われるが、最後に残った櫛名田比売は須佐之男命に助けられた。名の意味は、「愛娘の櫛名田比売を慈しみ、その手足を愛撫する神」を表わす。手名椎神は、櫛名田比売が須佐之男命の妃として須賀宮に移住した時に、足名椎神とともにその宮の司長とされ、「稲田宮主神」の名を賜った。



神格：農耕神、出雲の神
主要神社：水戸神社など

「古事記」では、伊邪那岐神が黄泉国から逃げ帰り、禊をした時に生まれた神。伊邪那岐神から「海原を治めよ」と命じられるが、務めを果たさず傍若無人に振舞い、怒った姉の天照大神を天岩屋に籠らせてしまう。その結果、高天原から追放される。地上に降りた須佐之男命は、出雲国で八俣の大蛇を退治、櫛名田比売と結婚するなど善神として活躍する。「荒ぶる神」だが、逆にその荒々しさが災いを破うとされ、強く頼もしい神として信仰された。



神格：農耕神、出雲の神
主要神社：水戸神社など

「古事記」では須佐之男命の六世の孫。出雲大社の縁結びの神である。もとは地域ごとに、それぞれのオホクニヌシを祀っていた。奈良時代に朝廷が各地のオホクニヌシの神社が祀る農業神を、出雲大社の太国主神の分霊と定めた。この神は稲羽素戔尊や根の国神話、八千矛神などの神話の主役で国津神の頂点に置かれているとされる。また、少彦名神とともに全国を巡り農業指導、医業普及、禁厭の法を制定するなど業績を残したとされ、多様な力を持つ神である。中世以降大黒天と同一視された。



神格：農耕神、出雲の神
主要神社：水戸神社など

出雲国に住む国津神、足名椎神と手名椎神の娘である。その名（「日本書紀」では奇稲田姫と記す）は稲の豊穡を表わすという。比売は須佐之男命と結婚、須賀宮に住み、八島士奴美神を生む。この六世孫に太国主神が生まれたと「古事記」は記す。八俣大蛇は山神・水神の表象であり、櫛名田比売はこれを祀る祭祀において神の妻となる巫女であったとする説がある。本来は稲田の神（農業神）だが、縁結び、夫婦和合の神としても祀られる。



他宗教との違い

民族宗教と世界宗教

世界には数多くの宗教があるが、それは様々な基準で分類、定義づけされてきた。特に、民族宗教と世界宗教によく分類される。前者は、民族の歴史や慣習から発展したもので、ヒンドゥー教や神道などである。自然発生的に始まり、祖先崇拜やシャーマニズムなどの形態が多い。

一方、民族の枠を超えて発展したのがキリスト教、イスラム教、仏教などの世界宗教である。これは、民族宗教などを取り入れつつ、創始者によって興され、創設の時期も明確である。

主な民族宗教

- ・ 神道
- ・ 道教
- ・ バラモン教
- ・ 古代エジプトの宗教
- ・ ユダヤ教

主な世界宗教

- ・ キリスト教
- ・ イスラム教
- ・ 仏教
- ・ ゾロアスター教

影響

影響

影響

影響



他宗教との違い

厳格な一神教との違い

キリスト・イスラム教の母体となったユダヤ教では、唯一神ヤハウェへの絶対的服従と、その対価としての恩恵という「神との契約関係」が重要視される。人々は神を信奉し、忠誠を誓い、神は恩恵を授ける。しかし、背信行為を行なう者に対して、神は罰を与える。これが一神教の特徴である。ユダヤ教から派生したキリスト教やイスラム教にもこの概念は継承されている。人々の価値観の上で、神の存在は絶対的なものであり、両者の間には常に契約の概念が介在する。

神

[ヤハウェ・アラーなど]

・ 罰を
与える

・ 恩恵を
与える

・ 忠誠を誓う
・ 服従する

人類

・ 神を信じない者
・ 異教徒

神を信じる人々

時に神に代わって罰する

●日本の神様になった主な外国の神々

神名	出身地	本来の名前	性格
神農さん	中国	神農	中国の伝説上の帝王。農業や商業、医療に精通し、少彦名神とともに祀られる。
大黒天	インド	マハーカーラ	インドにおける飲食を豊かにする神。「ダイコク」の読みから大国主神と同一視された。
毘沙門天	インド	バイシュラバナ	ヒンドゥー教の神が仏教に取り入れられた。
弁財天	インド	サラスバティ	インドの大河の神。仏教に取り入れられ、日本に来てからは芸能の神となった。
布袋	中国	いし 契此	9～10世紀に活躍した中国の僧。日本に輸入されると福を招くと信仰された。
牛頭天王	インド	武塔太子	祇園精舎の守護神。日本では須佐之男命と伝説が似ていることから、その化身とされた。
金比羅さま	インド	クンピーラ	ガンジス川に住む仏教の守護神。日本では海上の安全を守る金比羅大権現となった。

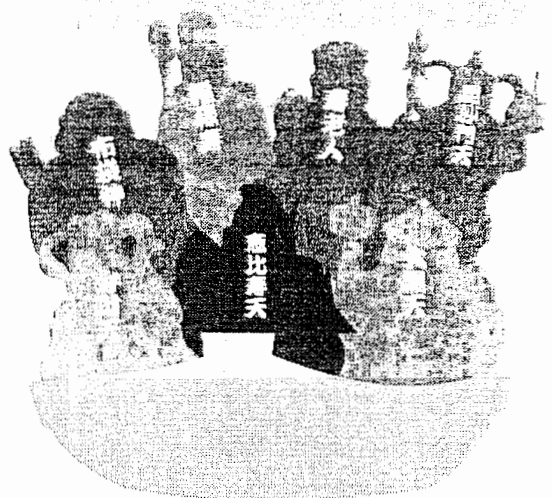


他宗教との違い

三大宗教の他宗教観

世界の三大宗教の、他宗教に対する考え方は様々だ。仏教は他宗教に対して、非難も自己主張もしない。優劣を競うべきでないという考えだ。キリスト教には、他宗教をキリスト教への前段階と見る説、諸宗教が相補し、より完全な神の真理を示すという説、諸宗教をある状況における神の臨在とする説などがある。唯一絶対の神を信仰するイスラム教は、一神教のユダヤ教徒やキリスト教徒には「啓典の民」として一定の尊敬を捧げるが、多神教・偶像崇拜は認めない立場をとる。

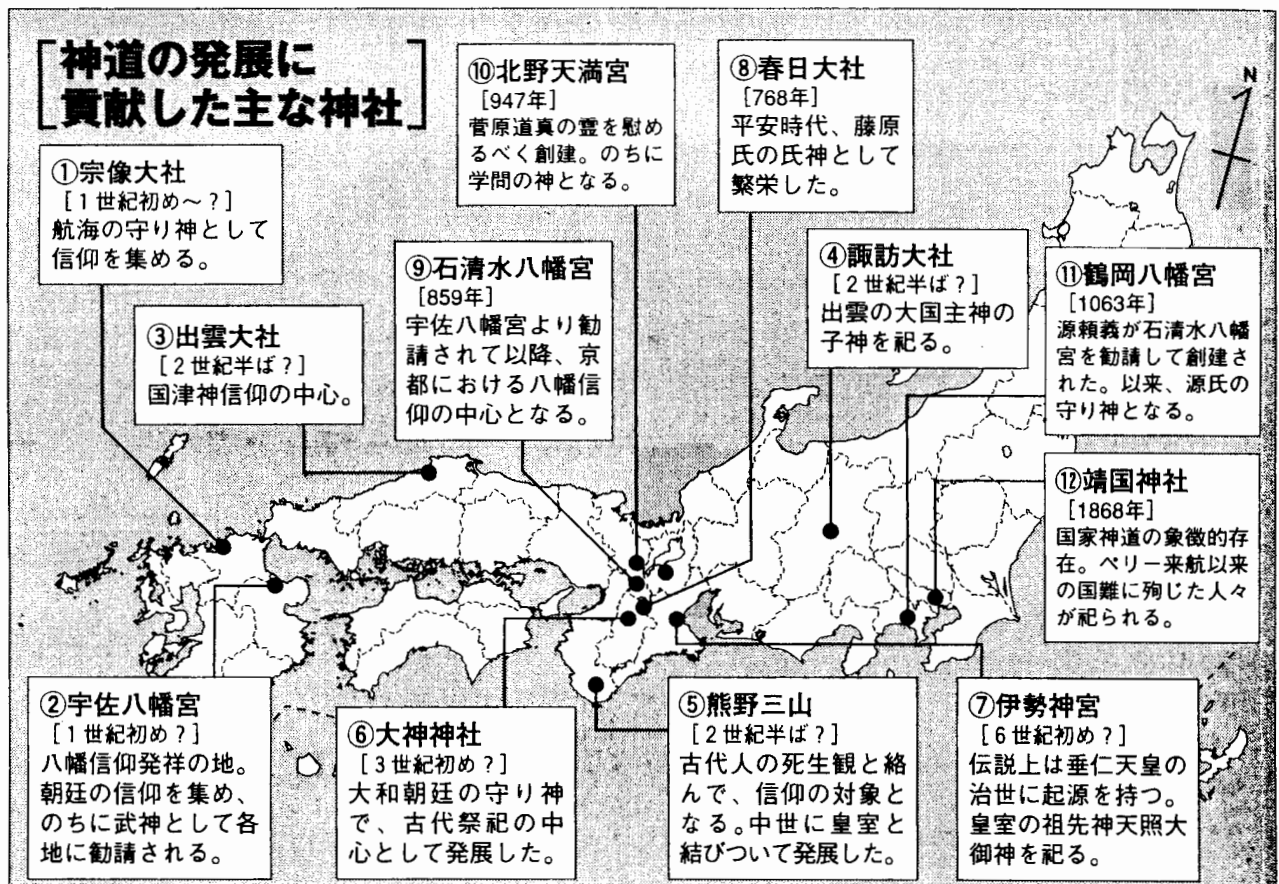
●多国籍な七福神



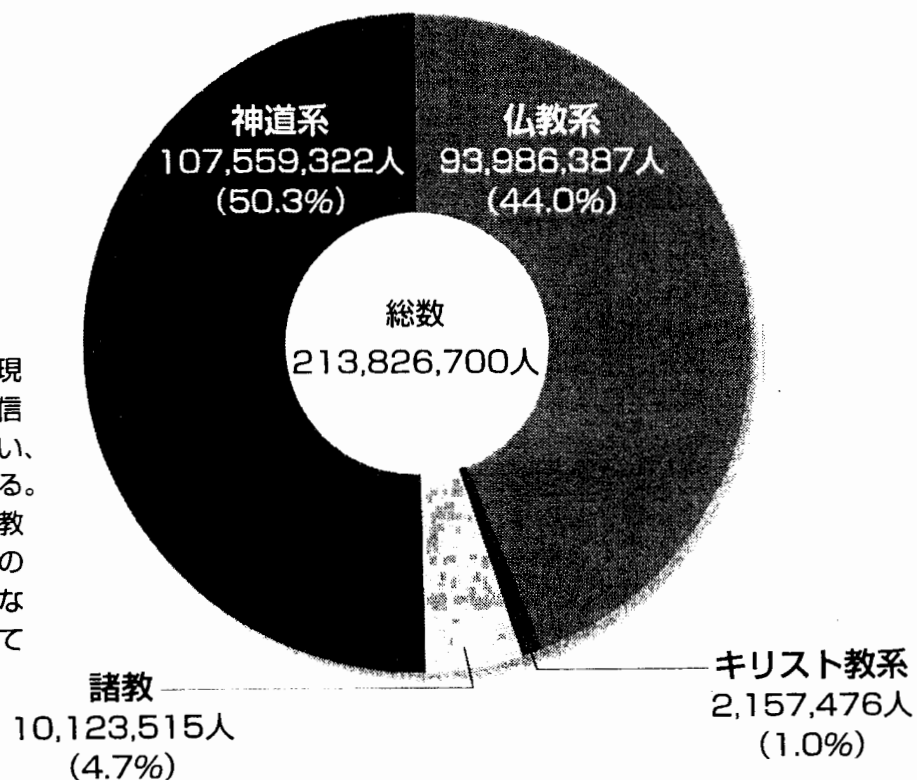
七福神の構成は実に国際的である。大黒天と毘沙門天、弁財天はインドの神だし、実在の人物である布袋和尚、南極老人星の化身といわれる寿老人と福祿寿が中国の神、日本を出自とする神様は恵比寿のみなのである。

神に祀られた人々

- ①、柿^{かきのもとひとまる}本人麻呂 柿本神社（兵庫県明石市）
学問、除災、夫婦和合などのご利益で信仰されている。
- ②、菅^{すがわらのみちざね}原道真 北野天満宮（京都市北野）
大宰府天満宮（福岡県太宰府）
学問、和歌の神として信仰されている。
又、雷神とも言われ、農業の守護神として信仰されるようになる。
- ③、平^{たいらの}将^{まさかど}門 神田明神（東京都千代田区神田）
除災、厄除の神として信仰されている。
- ④、安^{あべのせいめい}部清明 清明神社（京都市上京区）
除災、厄除、病氣平癒などのご利益で信仰されている。
- ⑤、楠^{くすのきまさしげ}木正成^{みなとがわ} 湊川神社（神戸市中央区）
生活一般のご利益で信仰される。
「七生報国」と言って七回生き変って朝敵を滅ぼすといわれ、歴代の天皇、特に明治天皇に慕われていた。
- ⑥、新^{にったよしさだ}田義貞 藤島神社（福井市毛矢） 生活一般のご利益で信仰される。
- ⑦、豊臣秀吉 豊国神社（京都市東山区）
出世、開運の神として信仰されている。
全国に5箇所あり（金沢市、名古屋市、滋賀県長浜市、大阪市）
- ⑧、徳川家康 日光東照宮（栃木県日光市）
厄除、開運のご利益で信仰されている。全国に26箇所の東照宮がある。
- ⑨、東^{とうごうへいはちろう}郷平八郎 東郷神社（東京都渋谷区）
合格祈願、必勝祈願などの信仰されている。
戦前は海軍の神として信仰された
- ⑩、乃^{のぎまれすけ}木希典 乃木神社（東京都港区）
護国の神、文武両道の神、夫婦和合の神として信仰されている。
戦前は陸軍の神として信仰された。



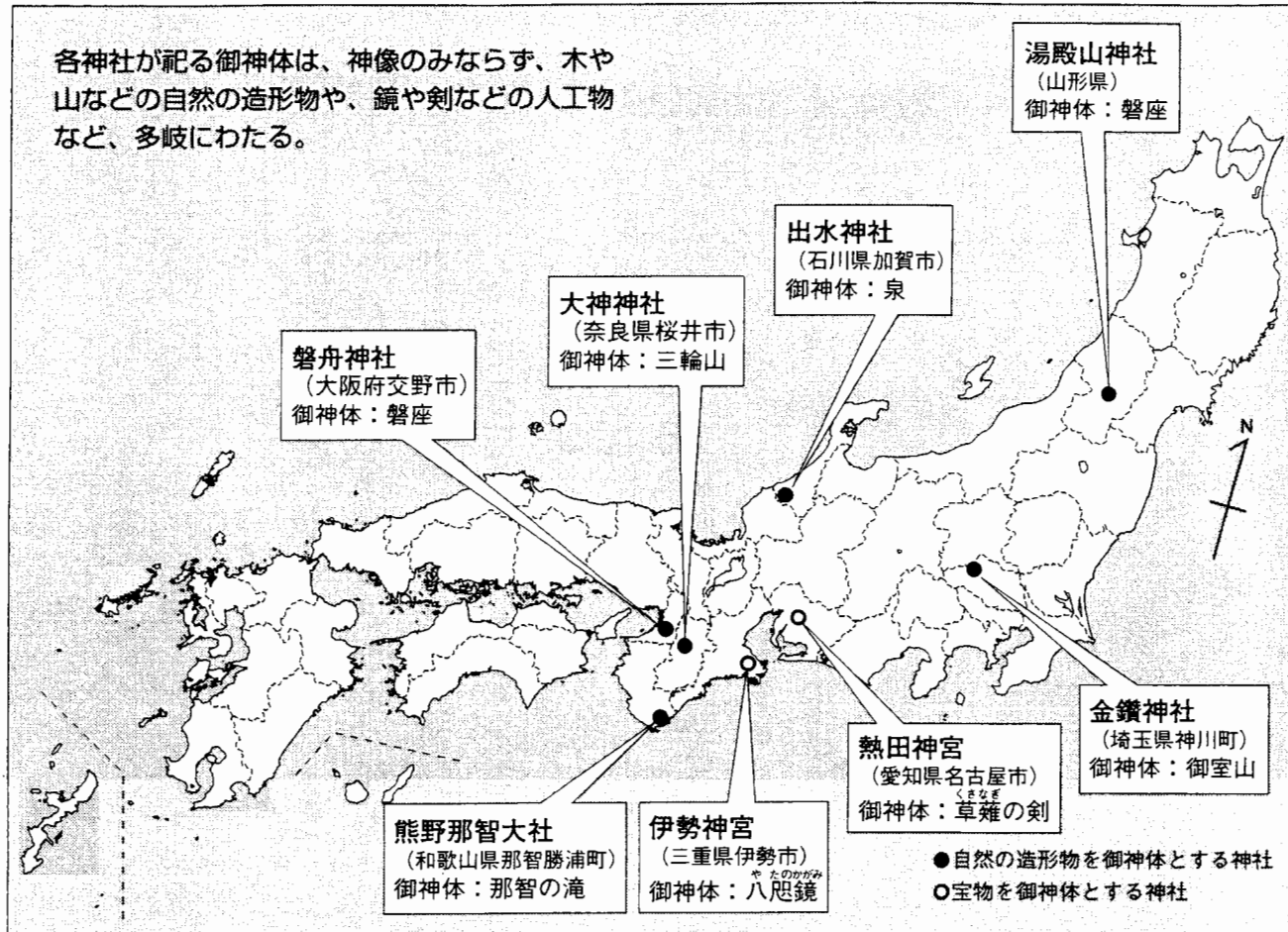
我が国の総信者数 (平成15年12月31日現在)



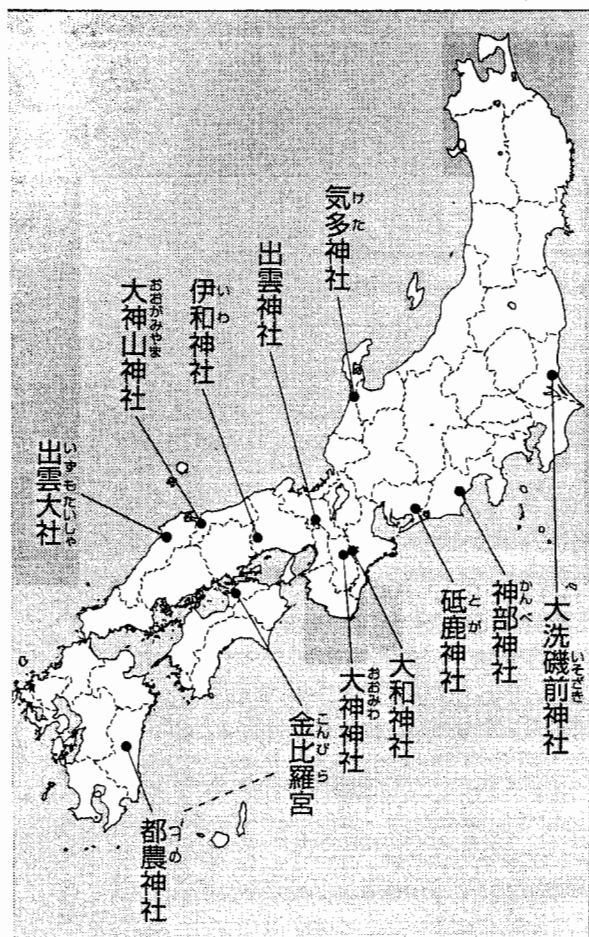
平成15年12月31日現在の総信者数。日本の総信者数は2億を超えてしまい、人口を大きく上回っている。これはひとりの人間が仏教の行事のみならず、神道の行事やキリスト教の行事など、様々な行事に参加しているためである。

● 主な神社と御神体

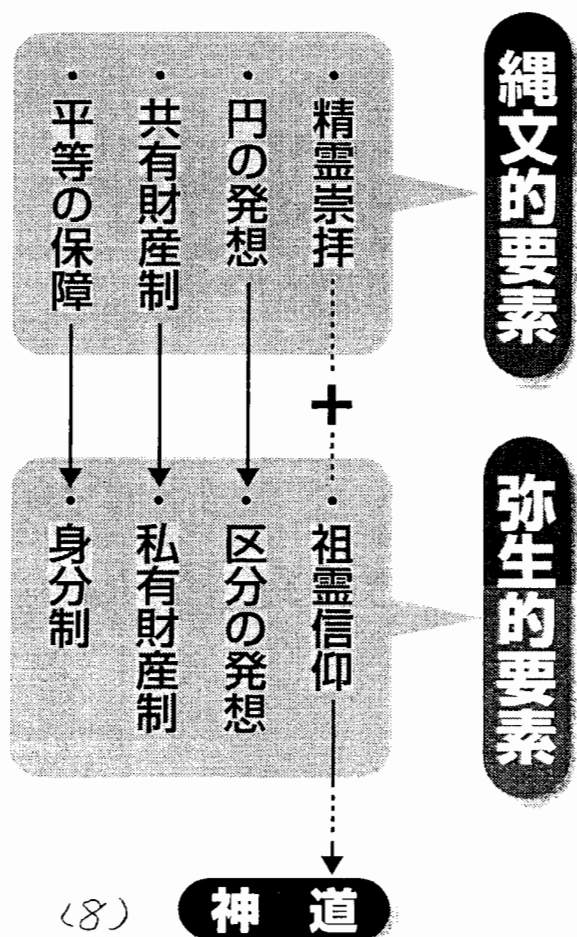
各神社が祀る御神体は、神像のみならず、木や山などの自然の造形物や、鏡や剣などの人工物など、多岐にわたる。



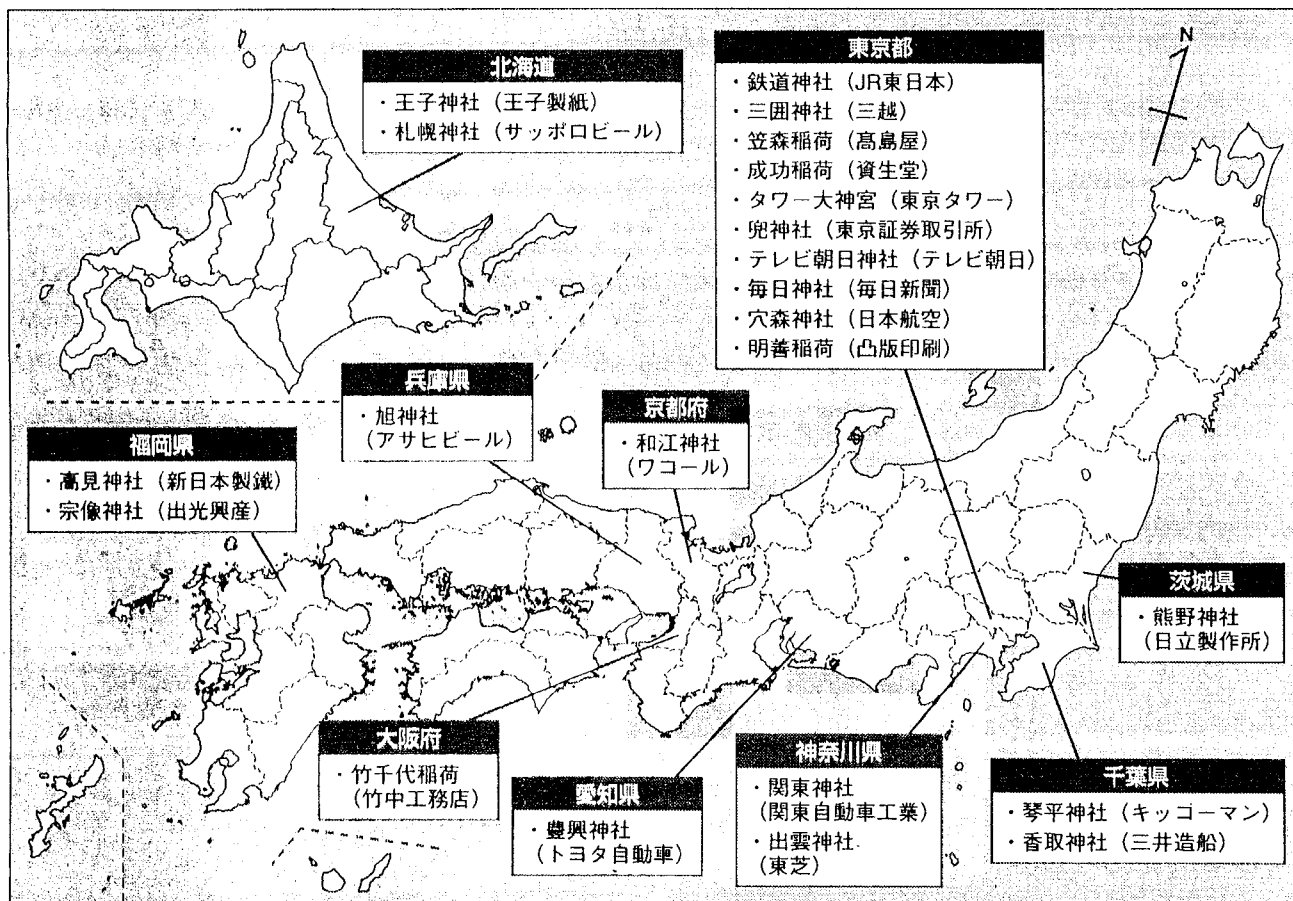
● 大国主神を祀る主な神社



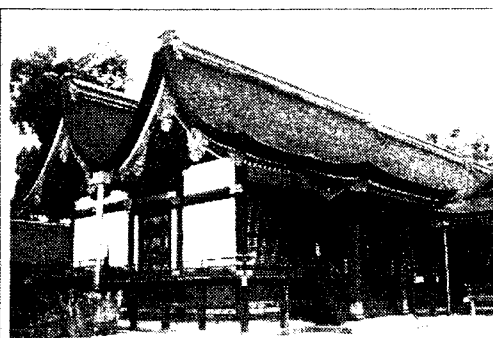
● 神道の萌芽



●企業が祀る主な神社

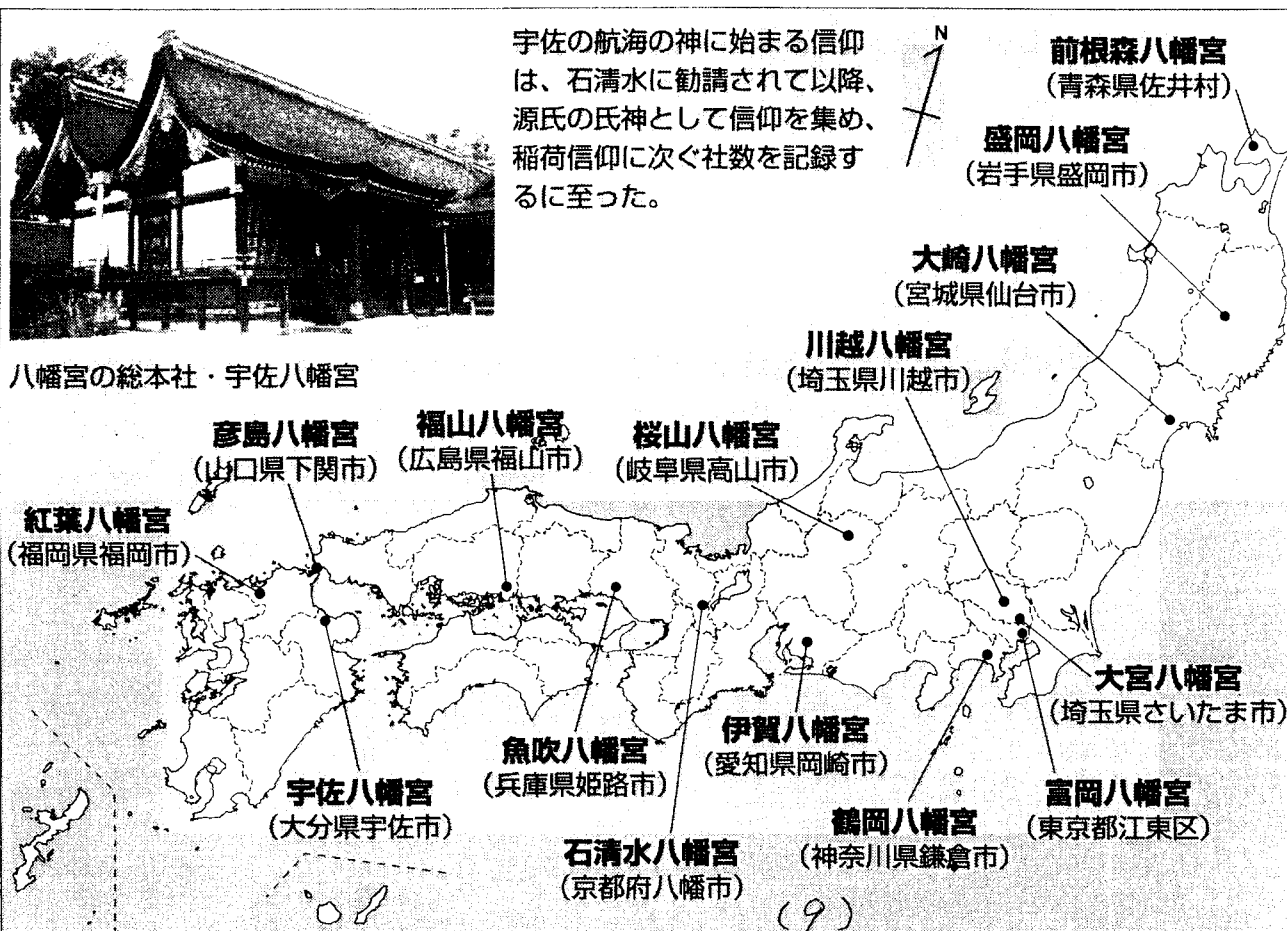


●全国の主な八幡宮



八幡宮の総本社・宇佐八幡宮

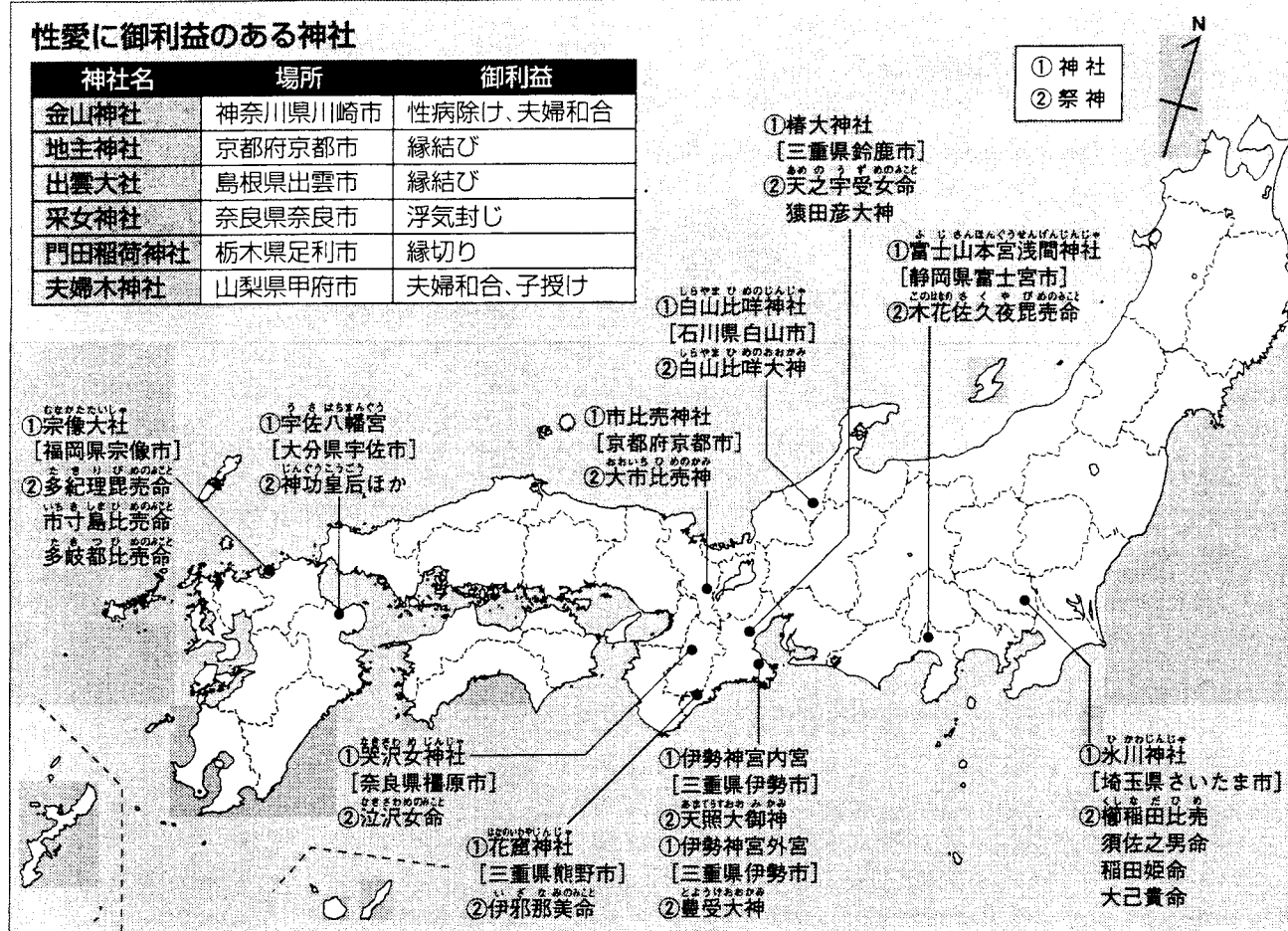
宇佐の航海の神に始まる信仰は、石清水に勧請されて以降、源氏の氏神として信仰を集め、稲荷信仰に次ぐ社数を記録するに至った。



●盛んに行なわれる女神信仰

性愛に御利益のある神社

神社名	場所	御利益
金山神社	神奈川県川崎市	性病除け、夫婦和合
地主神社	京都府京都市	縁結び
出雲大社	島根県出雲市	縁結び
采女神社	奈良県奈良市	浮気封じ
門田稻荷神社	栃木県足利市	縁切り
夫婦木神社	山梨県甲府市	夫婦和合、子授け



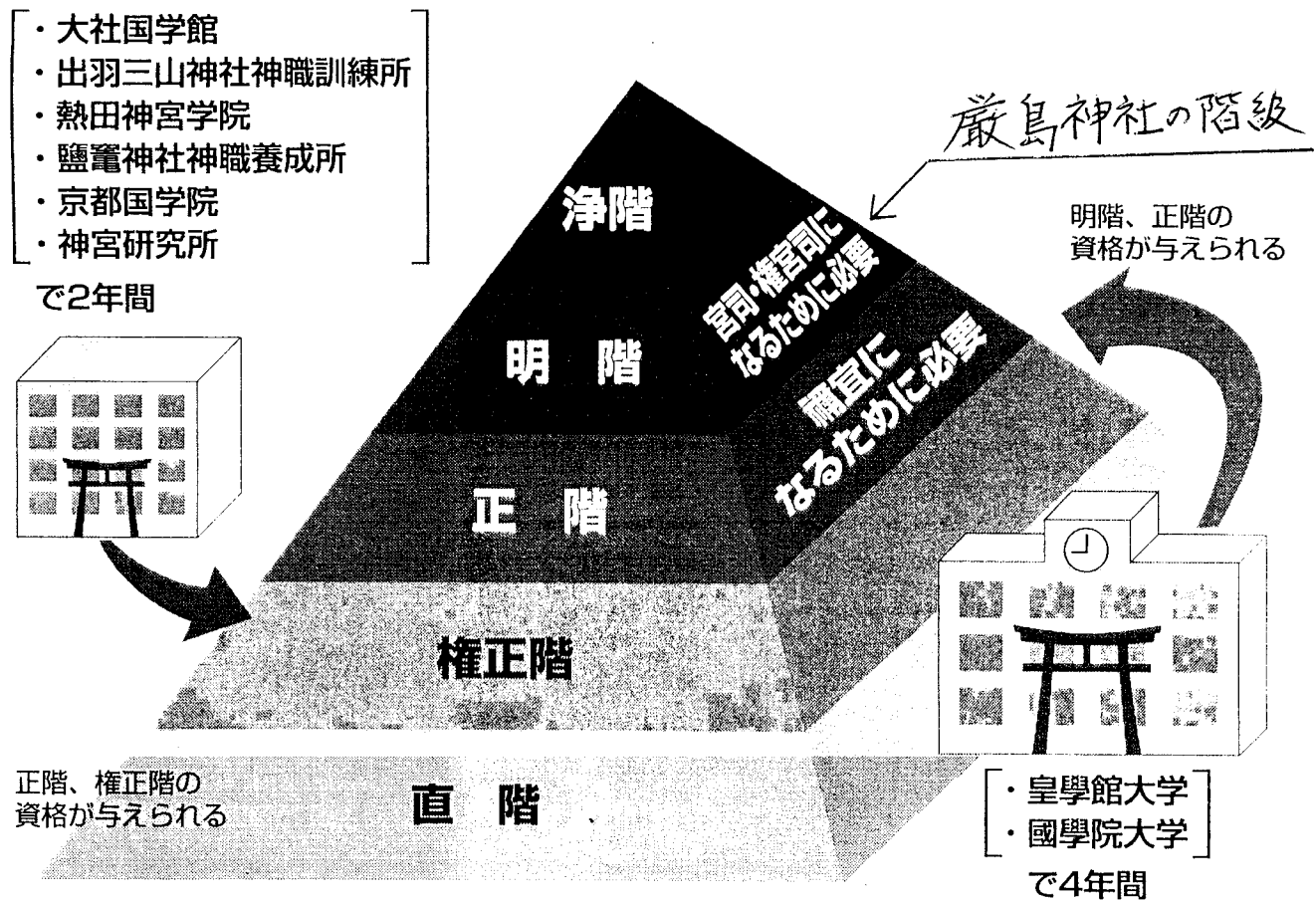
●全国の主な稲荷神社

◎『稲荷信仰事典』に基づく
日本三大稲荷

伏見稲荷大社に始まった渡来系豪族秦氏の信仰は、真言密教と融合しつつ、全国へ拡大。ついに最大の社数を誇るまでになった。



●ピラミッド型の神職の階級



神道ミニ知識

神職になるには？

神職に就くにはまず資格が必要だ。各県の神社庁が行なう講習・実習を受け、試験に合格すれば資格がとれるが、難易度は高い。これより楽なのが所定の学校を卒業すること。東京の國學院大学と三重の皇學館大学の神道学科を卒業すると、明階取得ができる。また、各地に神職養成所があり、高校卒業後1年で権正階、2年で正階がとれる。巫女については、特に定められた資格はなく、募集する神社ごとに規定を定めている程度。女子高生に人気のアルバイトといわれる。

●世襲された大神社の神職

伊勢神宮	・内宮：荒木田氏 ・外宮：度合氏
熱田神宮	尾張氏→藤原氏
宇佐神宮	・宇佐氏→大宮司：膳伴氏 ・権大宮司：大中臣氏
宗像大社	宗形氏
阿蘇神社	阿蘇氏
氣比大社	中臣氏
香取神宮	中臣氏
鹿島神宮	中臣氏

市街地の主だった神社の御祭神

◎厳島神社：：縣社（けんしや）

市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）、阿寒大神（あかんのおおかみ）、稻荷大神（いなりのおおかみ）、金比羅大神（ことひらのおかみ）、秋葉大神（あきはのおおかみ）、海津見大神（わだつみのおおかみ）、猿田彦大神（さるたひこのおおかみ）

◎三吉神社：：村社（そんしや）

大己貴命（おおなむちのみこと）、少彦名命（すくなひこなのみこと）、稻荷大神（いなりのおおかみ）、三吉大神（みよしのおおかみ）、船魂大神（ふなだまのおおかみ）

◎鳥取神社：：村社（そんしや）

大國主神（おおくにぬしのかみ）

○御得稻荷神社：無格社

正一位稻荷大神（しょういちいなりのおおかみ） 妙見大神（みょうけんのおおかみ）

金刀比羅大神（ことひらのおおかみ）

○三共稻荷神社：無格社（むかくしや）

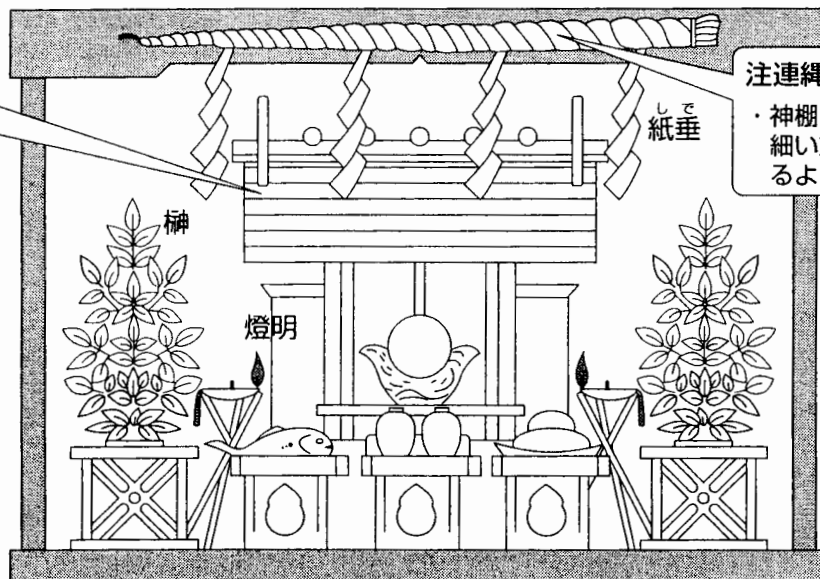
正一位稻荷大神（しょういちいなりのおおかみ）

*注 ◎太文字神社は神社庁釧路市支部に属している神社

●神棚の祀り方

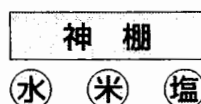
みやがた
宮形

- ・宮形には図のような一社造りと宮が横に三つ並んだ三社造りがある。
- ・宮形に伊勢神宮と氏神のお札を納めて祀る。
- ・一社造りに札を納める場合、伊勢神宮の札を前に、次に氏神の札を重ね、後ろに他に崇敬する神社の札を納める。
- ・三社造りに札を納める場合、伊勢神宮の札を中央に、氏神の札を向かって右に、他に崇敬する神社のお札を左に納める。



お神酒 供物

お供えの仕方——神饌を供えるときの順序



【米・塩・水の場合】

米またはご飯が中央、塩が向かって右、水が向かって左となる。



【酒をお供えする場合】

左から水、酒、米、塩の順になる。



また、正月や毎月一日などには野菜や魚などもお供えする。横一列に並べるのが基本とされているがスペースがない場合は、二列でもよい。



神道ミニ知識

こんなにいる家庭の神様

家の中の神様というのは神棚だけにはらっしゃるわけではない。実は家のいろいろなところにいらっしゃるのだ。台所には荒神が、暗がりにはえびすが、牛舎には庚申が、ほかにも便所神や水神など至る場所に、それぞれの性質に合わせて祀られている。

また、歳神や恵方棚など一定期間だけ、または毎年方角を変えて祭られる神もある。

家の中には様々な神が同居し、家や家族を見守っているのである。

正月	正月は、古くは祖先の霊を迎えて祀る行事であった。門松は、もともと祖先の霊とも考えられている歳神を迎えるためのものであり、鏡餅においてももともと歳神への捧げ物であった。
お彼岸	春と秋の年2回訪れる彼岸は、仏教の行事としてのイメージが強いが、本来は祖霊を敬うことを教える神道の行事である。
七夕	七日盆・盆はじめともいわれ、七夕には水に関する行事が多い。かつてはお盆の行事の前に、穢れを祓い清めるための行事であった。
お盆	旧暦7月15日を中心に行なわれる祖先を祀る行事。仏教行事とみられているが、祖霊を迎えるという行為は、日本に古くからあった祖霊祭の名残りと考えられている。
氏神祭	各家庭で祀られている神々を祀る、年に一度の各家庭の祭りで、宅神祭ともいう。家庭を見守る神々に家内安全や家運隆昌などが祈願される。

参考：神社本庁ホームページ

厳島神社

アクセス

リンク

お問い合わせ

玉串のあげ方

目次

表紙

御案内

御由緒

境内

年中行事

ご祈禱

基礎知識

厄年

神棚・拝礼作法

手水の取り方

玉串のあげ方

恵方参り

その他

周辺の御案内



④左手を下げて
根本を持ち、「の」
の字なりに廻し
て…



③右手で榊の根
本を手前に引き



②神前の案(机)の
前に進み、軽く一
礼する。



①右手が榊の根
本を持つように玉
串を受ける



⑦拍手は両手を
胸の高さに上げて
合わせ、右手を少
し引き、肩幅程に
開いて開いて拍
手を待つ。



⑥次に二杯(二
礼、二拍手、一杯
(二拍手、一拝す
る)



⑤榊の根本を神
前に向け、案の上
に両手で広げる。

榊(さかき)に紙垂(かみしで)をつけたものが神さまに捧げるための供え物『幣帛(みてぐら)』の一つである玉串です。

玉串を神前に捧げることによって恭順の心を表し、神とのつながりを確認するための儀式です。紙垂は神の衣を、榊は神の繁栄をそれぞれ表す象徴ということになるでしょう。

神さまに玉串を捧げる儀式のことを「玉串奉奠(たまぐしほうてん)」と呼びます。

神職より玉串を受け取り、神前に用意された案(机)の前に進み出て時計回りに玉串を半回転させ、根の方向が神さまに、葉の方向が自分の方を向くようにして捧げます。

●神社の参拝方法

参拝の心得その三

- ①賽銭を投げ入れる行為は自分の罪や穢れを祓う意味もこめられている
- ②賽銭を投げ入れたあと、鈴を3回力強く鳴らす。この行為には邪気を払い、神霊を呼び寄せる効果がある

神殿

参拝の心得その四

正式参拝の折には玉串を捧げる

- ①神職の祝詞のりとを受ける
- ②右手で榊さかきの根元を、左手で先の方を支え、少し肘を張って受け取る
- ③神前で軽く一礼する
- ④玉串の先を時計回りに90°回し、左手を下げた祈りを込める
- ⑤右手を離してさらに時計回りに回し、榊の根元を神前に向ける
- ⑥案の上に玉串を置き、二拝二拍一拝する

拝殿

狛犬

灯笼

手水舎

参道

参拝の心得その二

参道の中央は神様の通り道とされるので、真中を歩かず端を歩く

参拝の心得その一

- ①柄杓を右手に持って左手を洗う
- ②柄杓を左手に持って右手を洗う
- ③左手に水を受けて口をすすぐ
- ④頭を下げたお祓いを受ける

鳥居